

令和八年 勝友

幸せになる覚悟

人生には、予期せぬ出来事が続き、心が揺さぶられる時があります。しかし、どんな状況でも「今をどう生きるか」で、歩む道は変わります。

恥ずかしながら、私自身、悩みは尽きません。しかし、昨年のことです。「私は幸せなのだろうか」と自問した時、ためらいもなく「私は幸せだ」と思えたのです。その答えに、私自身が驚きました。

実は、幸せというものは、何かを成し遂げたからなるものではありません。また、幸せは何かを手にしたから幸せになるのではないのです。今、このままの私で、幸せなのです。

道元禅師は、「やはらかなる容顔をもて、一切に向かうべし」と示されました。思い通りになる時も、ならない時も、まずやはらかなる容顔、即ち、あなたの一番素敵なお顔で生きていきなさいと、励ましておられます。

その覚悟ができた時、現れた出来事は“私を苦しめるもの”ではなく、“私を育てる課題”に姿を変えていきます。つまり、苦しみに苦しんでいた私が、その苦しみに支えられて生きていることに気づくことができる。そして、苦しみの今ここが、幸せの今ここに転じていくのです。

新しい一年、皆さまがそれぞれの「今」をしっかりと生き、やはらかな容顔で歩み出されることを心より願っております。私もまた、その歩みを共にしてまいります。

虚空蔵様御開帳法要と虚空蔵様マルシェのご案内

4月20日、第1回「虚空蔵様御開帳法要」と「虚空蔵様マルシェ」を開催しました。

いけばな小原流郡山支部様の華で皆さまをお迎えし、花祭りブースや虚空蔵様写経、福島県看護協会郡山支部様の「まちの保健室」なども設置。

キッチンカー5台と屋台4店も出店し、にぎやかな一日となりました。

集会所は成田区のご協力により、会食会場として利用させていただきました。

本堂では、成田保育所の児童による太鼓や、郡山ウインドアンサンブル様、安積合唱協会様の演奏が披露され、多くの方に楽しんでいただきました。尚、今年は4月19日(日)に開催いたします。皆さんに楽しんでいただける縁日になるよう企画中です。詳細は春彼岸頃に改めてお知らせいたします。



本堂の畳のおもて替えしました

使用したのは、須賀川市久保木畳店の「極み」です。

香り、耐久性、経年美化——良い畳の三要素すべてにおいて国内最高峰の逸品です。

畳表には、熊本県八代市の橋口英明さんが手がける「ひのさらさ」を使用。

深い草の香りとしっかりとした手触りが、本堂に穏やかな空気を運んでくれます。

ひのさらさ生産者
橋口英明氏

本堂中央：大紋高麗



雲形や菊花などの文様が描かれ
かつては貴族、現在では神社仏閣など格式のある場所で使われていますにや



徳成寺からのお願い

お寺にご用の際には、お越しになる前に必ずお電話をください。

住職一人がお寺で起居しております。

葬儀や所用で留守にすることも多くありますので、

予め電話でご要件をお伝えください。

尚、お盆やお彼岸には近隣のご寺院のお手伝いに伺います。

8月14日、彼岸の中日、正月3ヶ日以外の所在については、

お手数ですがご確認ください。

令和七年 伝道掲示板

1月
前半

1月
後半

2月

3月

4月

5月

6月

不期明日

寒暑、榮枯は天地の呼吸なり
苦楽、榮辱は人生の呼吸なり
『言志耋錄』

無機的な、からっぽな、ニュートラルな、
中間色の、富裕な、抜け目がない、
或る経済大国
三島由紀夫

身の上を思へば悔し罪とがの
一つ二つにあらぬ愚かさ
藤堂高虎

人間 到る処 青山あり
月性

妻をめとらば曾野綾子
あとは野となれ山となれ
三浦朱門 / 曾野綾子

雨の日にしか見えぬ景色がある



寄進者

金一封	為	先祖供養 成田	たから食堂 殿
金一封	為	先祖供養 成田	池澤吉雄 殿
金一封	為	亡父供養 成田	伊東利光 殿

7月

嘆いたところで この雨がやむわけじゃない
SION『やるだけやったら』

8月

やがて死ぬけしきは見えず蟬の聲
芭蕉

9月

朝々日出東 夜々月沈西
『永平廣錄』

10月

貧は人を苦しめず
人 貧に苦しむ
売茶翁

11月

いつでも どこにいても
仏様の慈悲のなか

12月

看よ看よ 臘月 盡く
うかうかしていると、人生は・・・
『虚堂錄』

徳成寺全機会

6月は田代まさしさんに、「すべてを失ったからこそ観える世界」

11月は東儀秀樹さんに「すべてを否定しない生き方」について語っていただきました。

毎回、100名を超える方々にご参加いただいております。

共に学べる場を、本年も持ちたいと考えております。



トクの近況



猫の手も借りたい時もあるが、猫は決して手を貸してくれません。

天気がいいと、外に出て、ネズミや蛇などを咥えて、
自慢げに唸りながら、意気揚々とご帰還される。

しかし、タイミングは一切考えない。法事の最中であろうが、おかまいなしです。

自分のご飯よりも私の食事が美味しいものだと感じたならば、

横取りをしようとする。そして、障子は穴だらけ。

昨年の11月、左の犬歯が1本抜けました。残りの歯は、右の犬歯だけ。

…それでも、元気に生きてあります。

